

●書学書道史学会

会報

第37号

令和元年(2019)5月20日

編集・発行
書学書道史学会
会報委員

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1

パレスサイドビル9F

㈱毎日学術フォーラム内

TEL : (03) 6267-4550

FAX : (03) 6267-4555

メールアドレス:

maf-syogaku@mynavi.jp

令和の新時代を祝して

富田 淳

令和の改元にもない、四月の末から五月の初めにかけて、かつてない大型の連休を謳歌した方も多くいらしたことと思います。私は展覧会の関係で、連休の中盤が出勤だったため、大型という実感がありませんでしたが、休日には故あって山田正平に関する資料を涉猟して過ごしました。

言うまでもなく、山田正平は篆刻家・木村竹香の次男として新潟に生まれ、十六歳の時に上京、山田寒山のもとに寄寓して、会津八一をはじめとする多くの文人たちに目をかけられました。山田正平が二十歳の年に、山田寒山は六十四歳の生涯を閉じ、翌春、山田家の養子となりました。同年、二十八歳年長の河井荃廬に随伴し、西冷印社の社長として盛名を馳せる七十六歳の呉昌碩に教えを受けるものの、山田正平は日本人らしさを前面に押し出した刻風をうち立て、芸苑に長く君臨したのは周知のとおりです。

令和

私が興味をそそられたのは、山田寒山の代表作『羅漢印譜』でした。詳細は省略しますが、山田寒山が刻し、明治四十一年に木村竹香が上梓したこの印譜には、伊藤博文をはじめとする多くの文人や印人たちが参画し、書や画や

印に腕をふるい、錦上に花を添えているのです。

思えば、山田寒山や木村竹香が活躍し、山田正平が幼少期を過ごした明治時代は、江戸期以来の漢学の素養や中国趣味がまだまだ色濃く継承されるなかで、当時の中国の知識人をも巻き込みながら、実に多くの学術的な漢詩文や書の雑誌が刊行されました。漢詩文がいかに盛行していたかは、各種の日刊新聞が和歌や俳句とともに、漢詩の投稿欄を設けていたことからも推察できるとは思います。

書の雑誌に関しては、明治以降、法書会の『書苑』、泰東書道院の『書道』などが陸続と刊行され始め、枚挙にいとまがないほどです。さらにその執筆陣たるや、政界学界の有識者や中国の文人たちが名を連ね、記事も相当に高度な内容を誇っています。当時は書という世界が一種のサロンとして、内外の知識人を魅了し、異業種間の交流を深める格好の場となっていたのです。

明治から大正、昭和、平成を経て、令和と改元された年の今秋、本学会は東京国立博物館で第三十回となる大会を開催する運びとなりました。山田正平の生誕から百二十年。明治から昭和の初期にかけて盛況を呈した書学の成果の多くは、紙媒体として公刊されましたが、平成から令和となった現在では、書学の質も量も大きく変貌をとげ、電子媒体を介して、膨大な情報が発信される時代を迎えています。我々はこれまで多くの諸先輩がたのご努力によって形成された盤石の体制をもとに、時代に即した新たな学会の在り方を模索し、この伝統を未来につないでゆかねばなりません。

大会が開催されるころ、東京国立博物館では天皇陛下の御即位を記念して「正倉院の世界 皇室がまもり伝えた美」を開催します。正倉院宝物に焦点をあてながら、法隆寺献納宝物をも加えて、飛鳥・奈良時代の国際色豊かな奥深い文化をご紹介します。書の内容です。書の内容は決して多くありませんが、東西交流の中ではよくまれた、かけがえのない日本の美のオーラを実感しながら、本大会を通して、今後我々がめざすべき坂の上の星を探す機会としていただければ幸いです。

(副理事長)

第30回 書学書道史学会大会開催のお知らせ

国内局

今年度の書学書道史学会大会は、10月26日(土)・27日(日)の両日にわたり、東京国立博物館において開催いたします。

詳細、および参加申し込みについては、9月下旬以降に「大会のしおり」として研究発表のレジュメとともに、ご案内を差し上げます。また、学会HPでも随時お知らせいたしますので、ご覧下さい。現時点での概要は以下の通りですので、予定下さると幸いです(一部変更がある場合もございますので、予めご了承下さい)。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

○理事会

【10月26日(土)】
11時00分～ 東京国立博物館(会議室は未定)

○大会

【10月26日(土)】
12時30分～ 受付開始
東京国立博物館(大講堂)

13時00分～14時00分 開会式、総会
14時00分～15時30分 第30回大会記念シンポジウム
テーマ「書学書道史研究の課題(仮題)」
15時40分～17時40分 第30回大会記念講演
テーマ「近百年の中日書法交流について(仮題)」
講演者・蘇士樹氏(中国書法家協会主席)
通訳担当者:未定
18時00分～ 懇親会
(上野精養軒または東天紅予定)

【10月27日(日)】
9時00分～ 受付開始

東京国立博物館(大講堂)
9時30分～12時00分 研究発表(5本)
12時00分～13時30分 記念撮影・昼食
13時30分～14時30分 特別展自由参観
14時30分～16時00分 研究発表(3本)
16時00分～16時10分 閉会式

○会場へのアクセス

JR上野駅公園口、または鶯谷駅南口下車徒歩10分
・東京メトロ 銀座線・日比谷線上野駅、千代田線根津駅下車徒歩15分
・京成電鉄 京成上野駅下車徒歩15分
・台東区循環バス「東西めぐりん」で上野駅・上野公園バス停から乗車し、1つ目のバス停が東京国立博物館前(2分)



○宿泊施設について

役員・会員ともに、各自で手配願います。



【お問い合わせ】

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
「株」毎日学術フォーラム内「書学書道史学会」
TEL:03-6267-4550
FAX:03-6267-4555
メールアドレス: mat_syogaku@mynavi.jp

◎非会員の大会参加について

第27回大会より、会員が引率する非会員の大会参加費は1名無料となります。

第30回 書学書道史学会大会研究発表者募集要項

国内局

今年度、「第30回書学書道史学会大会」は、東京国立博物館・大講堂において開催いたします。会員各位、日頃の研究成果について、意欲的かつ積極的な発表を期待し、左記の要領で募集いたします。

記

- ①発表日：令和元年10月27日(日)
 ②発表時間：各30分(発表20分、質疑応答10分)
 ③申込方法：Eメールにてお申し込みください。件名には必ず「書学書道史学会大会発表申込(氏名)」と明記し、「所属・氏名・連絡先」を記した上で、発表内容の題目と、発表内容の要旨をレジュメ800字程度にまとめ添付してください。
 ④レジュメ：原則としてワープロ(テキスト形式・ワード形式のいずれか)で作成し、Eメールに添付し送信してください。

事務局よりお願い

◆年会費について

本号に年会費納入用の郵便振替用紙が同封されています。年会費納入は、7月10日までに納入ください。なお、平成31年3月現在、会費を滞納している方には、本年度分に滞納年度分を加算した金額が記載されております。速やかに全額をご納入ください。また、3年以上滞納の方は、すでに導入されている「長期会費滞納者の自動退会(除籍)制」の適用対象となります。ただし、退会(除籍)適用対象者となった場合であっても、退会届提出の年度分までの合算額における学会費の請求権は消滅しません。本件に関して、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入請求を続けることが総会にて決定されていますので、予めご了承ください。

さい。

- ⑤発表申込締切：令和元年6月27日(木)必着
 ⑥発表者の決定と連絡：大会での発表者は、6月30日(日)に開催予定の常任理事会にて協議・決定し、採否を個別でご連絡します。
 ⑦9月下旬に「大会のしおり(含レジュメ集)」を全会員へ配布予定。また、確定した内容はホームページ上でも公開いたします。

※注記

・大会の発表者については、学会誌『書学書道史研究』第30号(令和2年度秋刊予定)への論文投稿申込があったものとして扱われます。改めて学会誌への投稿申込を行う必要はありません。

・学会誌への論文投稿締切は、令和2年3月31日となっております。投稿後、原稿掲載の採否は査読委員会において

◆学生会員の「会員変更手続き」について

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は学生会員(学生会費適用の方)が大学院を修了、または満期退学・中途退学、その他の理由により学籍を失った時(学生証の発給対象でなくなった時)に、「学生会員資格終了」とするものです。該当の方で、引き続き一般会員として留まる場合、必ず会員変更手続き(会員変更申込書)の提出が必要で、とりわけ、今春に学生会員資格を失った方は、至急手続きをお願いします。「会員変更申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。会員変更手続きにより、自動的に一般会員資格が付与されます。なお、「会員変更申込書」

決定されず。

このほか学会誌関連での不明な点は、毎日学術フォーラム内「書学書道史学会編集局」宛にて、電子メールで問い合わせください。

「発表申込先/問い合わせ」

【書学書道史学会事務局】
 〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1

ハレスサイドビル9F

(株)毎日学術フォーラム内「書学書道史学会」

TEL:03-6267-4500

FAX:03-6267-4505

メールアドレス mat-syogaku@mynavi.jp

事務局

下の「紹介会員氏名」「役員推薦氏名」「理事会承認」各欄は、無記入で結構です。

「会員変更手続き」を含め、その他の問合せや書類送付先は、本会報一面の事務局(株毎日学術フォーラム内 Eメール:mat-syogaku@mynavi.jp)へお願いします。

◆会員名簿発行に伴う情報提供のお願い

一昨年度、会員名簿が発行されました。本年度も発行の予定です。会員各位の諸項目の加筆修正やご知友の会員の情報提供をお願いします。その他の問合せや情報提供は、本会報一面の事務局(株毎日学術フォーラム内 Eメール:mat-syogaku@mynavi.jp)へお願いします。

各局報告

国内局

別項にてご案内いたしました通り、本年度は東京国立博物館に特別なお取り扱いをいただき、第30回の記念大会として開催いたします。担当窓口は富田淳先生にお願いしておりますが、東京在勤の理事ならびに幹事、また関係会員よりご協力、ご支援をいただきながら、準備を進めて参りたく存じます。会員各位におかれましては、どうか意欲的なご発表ならびに多数のご参加をお待ちしております。

(国内局長 笠嶋 忠幸)

国際局

昨今の中国における書の研究は、出版だけでなく電子媒体をも含めて、実目覚ましいものがあります。見ごたえのある展示会はもちろん、最新の研究成果が矢継ぎ早に発信され、目が離せない状況です。会員各位におかれましても、国際シンポジウムでの発表や、国外の研究誌に論考を発表されているかたも多いことと存じます。国際局では、中国大陸・台湾・韓国・欧米などの博物館や美術館で開催される書画に関する展覧会、あるいは国際シンポジウムでの研究発信の状況などをご案内いたします。

(国際局長 富田 淳)

学術局

〔学術誌28号のJ-STAGE登載〕

2018年10月31日刊行の『書学書道史研究』28号を年度内の3月29日にJ-STAGEで公開し、即日、本学会のホームページでお知らせしました。なお今後、この費用は学術局経費として計上されますことを申し添えます。

〔WEB「学会名鑑」実態調査回答と結果公表〕

内閣府日本学術会議事務局から平成30年日本学術会議協力学術研究団体に対する実態調査があり、2019年1月25日に回答しましたが、3月4日、「学会名鑑」にて同調査結果が反映されました。

〔J-STAGE発行機関向けアンケートへの回答〕

独立行政法人科学技術振興機構から標記アンケートが届き、2019年1月31日に回答いたしました。今後も、局内で情報を共有して語りつつ、務めを果たしてまいります。

(学術局長 森岡 隆)

研究局

「研究促進助成金制度」による2019年度研究計画を募集いたします。奮ってご応募ください。詳細は「研究促進助成金制度／2019年度募集要項」と「2019年度書学書道史学会「研究促進助成金制度」応募研究計画書」をホームページに掲載しておりますので、一読ください。

■ 研究期間：2019年9月1日～2021年8月31日の二年間

■ 研究促進助成金：一件につき30万円(三件まで採択)

■ 申請受付期間：2019年6月1日(土)～6月7日(金)

■ 申請方法：ホームページ掲載「2019年度書学書道史学会「研究促進助成金制度」応募研究計画書」(Word形式)をダウンロードし、受付期間内に下記問い合わせ先までEメール(添付ファイル)で申請して下さい。

■ 問い合わせ先：mailto:syogaku@mynavi.jp

■ 問い合わせ方法：Eメールのみ(「2019年度研究助成問い合わせ」と記

入下さい)

2014・2015(平成26・27)年度、2016・2017(平成28・29)年度に引き続き、2018・2019(平成30・31)年度の研究局は、河内利治局長、福田哲之・永由徳夫両副局長、権田瞬一・角田健一両幹事の五名で運営しております。研究局に関するご意見がございましたら、上記問い合わせ先か局員までご連絡ください。

(研究局長 河内 利治)

編集局

今年度の編集局も、菅野智明、高橋利郎、橋本貴朗の各理事と、増田知之、成田健太郎、柳田さやかの各幹事が担当いたします。昨年度に引き続き、学会誌の編集業務を中心に、鋭意努めてまいります。学会誌の論文投稿は、学会サイトに掲げる投稿規定を熟読の上、遺漏なきようご対応願います。投稿は紙媒体の郵送とし、Eメールを用いないよう、特にご留意ください。また、大会発表者以外の投稿では、発行前年の十二月末までに、論文要旨(八百〜千字)の提出が必要となります。

(編集局長 菅野 智明)

事務局

〔平成31(令和元)年度事業・活動計画(案)〕

本来ならば、総会にて承認されるものですが、おおよその目安として、ここに提示します。変更等もありえますので、十分ご注意ください。

5月20日	第37号《会報》発行及び発送
6月27日	第30回大会発表申込締切
6月30日	第15期第3回常任理事会(於 大東文化会館)
9月下旬	平成30年度決算会計監査

10月26日

第64回定例理事会(於 東京国立博物館)

10月27日

第30回大会1日目(於 東京国立博物館)

10月31日

第30回大会2日目(於 東京国立博物館)

12月中旬

第29号『書学書道史研究』発行及び発送

12月31日

第15期名簿発行及び発送

1月15日

第30号『書学書道史研究』投稿申込締切

2月中旬

第38号《会報》発行及び発送

2月中旬

第16期役員選挙投票締切

3月上旬

第16期役員選挙開票(於 大東文化会館)

3月中旬

選挙選出理事による緊急会議(於 大東文化会館)

3月31日

第65回(臨時)理事会(於 大東文化会館)

3月31日

第30号『書学書道史研究』投稿原稿締切

(事務局長 高城 弘一)

新入会員紹介

事務局

〈学生会員〉

入倉祐子	筑波大学大学院
小島徳仁	筑波大学大学院
酒井杏子	大東文化大学大学院
史清晨	大東文化大学大学院
庄司滉一	大東文化大学大学院
鈴木吉貴	筑波大学大学院
鈴木真凜	筑波大学大学院
石永峰	関西大学大学院
登坂百香	筑波大学大学院
滑田一樹	大東文化大学大学院
村田萌	大東文化大学大学院

※平成30年10月〜平成31年4月に申請された方(五十音順)

書言字書道史学会 大会の歩み

事務局

【書言字書道史学会大会】

- 第1回大会／開催日：1990年11月23日
開催地：東京大学（東京・文京区）
 - 第2回大会／開催日：1991年11月23日
開催地：東京大学（東京・文京区）
 - 第3回大会／開催日：1992年11月21日
開催地：京大大会館（京都・京都市）
 - 第4回大会／開催日：1993年11月20日
開催地：大東文化大学（東京・板橋区）
 - 第5回大会／開催日：1994年11月19日
開催地：澄懷堂美術館（三重・四日市）
 - 第6回大会／開催日：1995年11月11日
開催地：諸橋轍次記念館（新潟・南蒲原郡）
 - 第7回大会／開催日：1996年11月16日
開催地：近つ飛鳥博物館（大阪・南河内郡）
 - 第8回大会／開催日：1997年11月22日
開催地：淑徳大学（埼玉・入間郡）
 - 第9回大会／開催日：1998年11月21日
開催地：筑波大学（茨城・つくば市）
 - 第10回大会／開催日：1999年11月13日
開催地：京都女子大学（京都・京都市）
 - 第11回大会（兼）第4回国際書学研究大会
／開催日：2000年9月15日～17日
開催地：日本教育会館（東京・千代田区）
 - 第12回大会／開催日：2001年11月10日～11日
開催地：別府大学（大分・別府市）
 - 第13回大会／開催日：2002年11月16日～17日
開催地：埼玉大学（埼玉・さいたま市）
 - 第14回大会／開催日：2003年10月11日～12日
開催地：京都教育大学（京都・京都市）
 - 第15回大会／開催日：2004年11月6日～7日
開催地：藤女子大学（北海道・札幌市）
 - 第16回大会／開催日：2005年10月29日～30日
開催地：大東文化大学（東京・板橋区）
 - 第17回大会／開催日：2006年11月11日～12日
開催地：四国大学（徳島・徳島市）
 - 第18回大会／開催日：2007年11月17日～18日
開催地：大阪教育大学（大阪・柏原市）
 - 第19回大会／開催日：2008年11月29日～30日
開催地：筑波大学（茨城・つくば市）
 - 第20回大会／開催日：2009年11月7日～8日
開催地：神戸大学（兵庫・神戸市）
 - 第21回大会／開催日：2010年10月23日～24日
開催地：日本大学（東京・世田谷区）
 - 第22回大会／開催日：2011年11月12日～13日
開催地：安田女子大学（広島・広島市）
 - 第23回大会／開催日：2012年11月17日～18日
開催地：大東文化大学（東京・板橋区）
 - 第24回大会／開催日：2013年11月9日～10日
開催地：滋賀大学（滋賀・大津市）
 - 第25回大会／開催日：2014年9月13日～14日
開催地：跡見学園女子大学（東京・文京区）
 - 第26回大会／開催日：2015年10月3日～4日
開催地：花園大学（京都・京都市）
 - 第27回大会／開催日：2016年10月1日～2日
開催地：國學院大學（東京・渋谷区）
 - 第28回大会／開催日：2017年11月25日～26日
開催地：日本大学（東京・世田谷区）
 - 第29回大会／開催日：2018年10月27日～28日
開催地：岐阜女子大学（岐阜・岐阜市）
 - 第30回大会／開催予定日：2019年10月26日～27日
開催予定地：東京国立博物館（東京・台東区）
- 【研究発表会】
- 第1回 研究発表会／開催日：2005年9月18日
開催地：大東文化大学（東京・板橋区）
研究余話：河野隆二「二世中村蘭臺の書画家刻―」の文人像―」
 - 第2回 研究発表会／開催日：2006年9月23日
開催地：大東文化大学（東京・板橋区）
研究余話：浦野俊則「改刻された甲骨文字」
 - 第3回 研究発表会／開催日：2007年9月24日
開催地：大東文化大学（東京・板橋区）
研究余話：澤田雅弘「刻法と筆法の怪しい関係」

第4回 研究発表会／開催日：2008年9月21日

開催地：日本大学（東京・世田谷区）

研究余話：富田淳「題跋識語にみる翁方綱と李宗瀚」

第5回 研究発表会／開催日：2009年7月5日

開催地：跡見学園女子大学（東京・文京区）

研究余話：森岡隆「万葉歌最古木簡の発見」

第6回 研究発表会／開催日：2010年6月20日

開催地：花園大学（京都・京都市）

意見交換会：「書の見方・感じ方」をめぐる座談会

第7回 研究発表会／開催日：2011年6月26日

開催地：跡見学園女子大学（東京・文京区）

意見交換会：「パフォーマンス書道の歴史とあり方」をめぐる座談会

第8回 研究発表会／開催日：2012年6月24日

開催地：日本大学（東京・世田谷区）

意見交換会：「若手研究者として感じていること」をめぐる座談会

第9回 研究発表会／開催日：2013年6月23日

開催地：大阪教育大学（大阪・大阪市）

意見交換会：「あなた（私）にとっての書の魅力」をめぐる座談会

第2回 会員のための特別鑑賞セミナー

／開催日：2006年2月27日

開催地：京都国立博物館（京都・京都市）

第3回 会員のための特別鑑賞セミナー

／開催日：2007年2月11日

開催地：淑徳大学（埼玉・入間郡）

第4回 会員のための特別鑑賞セミナー

／開催日：2008年2月23日

開催地：京都国立博物館（京都・京都市）

第5回 会員のための特別鑑賞セミナー

／開催日：2009年3月8日

開催地：東京国立博物館（東京・台東区）

第6回 会員のための特別鑑賞セミナー

／開催日：2010年3月6日

開催地：早稲田大学（東京・新宿区）

第7回 会員のための特別鑑賞セミナー

／開催日：2011年2月13日

開催地：大阪市立美術館（大阪・大阪市）

第8回 会員のための特別鑑賞セミナー

／開催日：2012年3月3日

開催地：出光美術館（東京・千代田区）

第9回 会員のための特別鑑賞セミナー

／開催日：2013年3月17日

開催地：泉屋博古館（京都・京都市）

【その他】

後援「林業強氏による講演会」

／開催日：2011年3月19日

場所：東京国立博物館（東京・台東区）

講師：林業強氏（香港中文大学文物博物館館長）

題目：「中国古代の碑帖に関する研究と鑑定方法」

「について」自らの経験をふまえて」

後援「大東文化大学書道学会主催講演会」

／開催日：2013年7月13日

場所：大東文化大学（東京・板橋区）

講師：傅 申氏（元米国フリーア美術館中国芸術

部主任）

題目：「日本残巻本より（故宮本自叙帖）が北宋影

写本であること」の確認」

【出版事業】

『国際書学研究／2000』萱原書房、2000年）

『日本・中国・韓国 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）

『書学書道史論叢／2011』（萱原書房、2011年）

※今号の掲載には「会員参加に関わる行事等の記載」と限定

し、これまでに発行しました会報をもとに情報の収集をして

おります。そのため、2000年（会報発行）以前の情報につ

きましては、今後改めて整理を行う予定です。

※発表者等の詳細は、ホームページの「書学書道史学会大会の

歩み」をご覧ください。なお、第21回大会以降は、今後更新

を予定しております。

【鑑賞セミナー】

／開催日：2004年2月27日

開催地：五島美術館（東京・世田谷区）

「宇野雪村コレクションと日本の名品」

談 話 室

中国式学力観と書法教育

草津 祐介

日本では、新学習指導要領において、三つの資質・能力を育成するべく、各教科の学習内容が再編された。

中国においても、中国式学力観とでもいうべき「核心素養(中核となる資質)」が発表された。この「核心素養」の内容が非常に興味深い。中国では「核心素養」として、「文化的基础」、「自主的發展」、「社会参加」の三つが挙げられ、「文化的基础」中のポイントの一つ「人文的知識」の要素「審美情趣」に、芸術文化に対する理解を高めることが挙げられている。この「核心素養」に基づいた教育課程が今後編成されていくと、中国の書法教育に今後いかなる変化が起こっていくのだろうか。興味深く注視していきたい。

平成の節目を迎えて

田中 春菜

平成から令和へと時代が移り変わろうとしている最中、私が参加させていただいた一大行事として、平成三十一年三月二十四日(日)に行われた「井茂圭洞先生文化功労者顕彰記念祝賀会」がある。会の一

員として、ほぼ最年少である私の参加は大変恐縮であり、ある意味、一つの歴史を一番遠い場所から見ようであった。同時に、自分がどのようなプロセスで書に関わっていくのか、自分ができるとは何か、ということについて考える機会となった。

結局、答えは出ないままだが、できないことや知らないことにありがたみを感じながら、講師として教壇に立つた際は学校教育としての書道を、大学院では研究を、というように今の自分の置かれた環境でできることを一つ一つ行っていきたいと思う。

龍門造像記の書風で「令和」

松尾 光晴

先日新元号が「令和」に決定。書塾等のSNSを拝見すると、「令和」熱真つ盛り。唐代楷書の書風で書かれたものが散見する。これは実用書が主に唐代楷書を扱っているからであろう。

一方展覧会の会場では、楷書といえは北魏楷書に立脚して制作されたものが圧倒的に多い。私も素材は北魏楷書で発表している。今回、龍門造像記で制作するならば、どのような表現になるのかと考え、造像記の中でも有名な二十品を調べてみた。結果、「令」字は三文字。牛極・一弗・賀蘭汗に一文字ずつ。「和」字は九文字。牛

極・一弗・始平公・元詳・解伯達・孫秋生で、前の三古典は一文字ずつ。後の三古典は二文字ずつ確認できた。重なるのは牛極と一弗。共に方筆系なので、元氣よく堂堂と揺るぎなく制作したいところである。

卷子本の太巻軸の改良

丸山 猶計

昨秋までの九年半、九州国立博物館に赴任した。思い出の一つに、泉福寺焼経の修理がある。この作品は華嚴経の巻第15のうぶな卷子本で、焼損により炭化した当初の軸端の一つが残る。従来卷子本の太巻軸は、円筒形を横に二つに割った中に元軸を収める構造が一般的だが、そうすると、太巻軸が接する元軸のつけ根数ミリには、必ず縦に巻癖がつく。構造上やむを得ないが、何とか解消したい。修理者に相談を持ちかけ数か月悩ませた。太巻軸を元軸に合わせてくりぬき、くりぬいた処からガイドとなる紙をつけて元軸を安定して巻きこむことに成功した。何ともコンプスの卵だが、展示室では太巻軸を付けつつ当初の軸端もご覧頂ける。詳しくは、九博紀要最新号掲載の、修理業者「宰匠」の論考を参照されたい。この他にも随所に工夫が詰まっている。

◆昭和に切られた古筆に「昭和切」があります。しかし、「平成切」といった名は未だに耳にすることはありませんが、どこかで作られているのでしょうか。そして、いつか「令和切」なるものも作られるのか、どのような古筆に付けられるのか、と密かに気になっており、新時代の楽しみのひとつとなっております。

◆新元号「令和」の発表によって「令」の書き方が一時期話題になりました。最終画は縦画？それとも点？教えきれないほどの質問に答えましたが、手書き文字に対する世間の関心の高まりを感じられた瞬間でした。令和の年も皆様よろしくお願ひいたします。(藤森大雅)

◆令和元年が本学会創設三十周年と重なりました。歩みを振り返りながら、新しい形をつくっていく節目になると感じています。(萱のり子)

編集後記

◆昨年九月に広島島の安田女子大学に着任し、早半年が過ぎました。先生方や職員さん、若さ溢れる学生たち、美しい武田山の景色、美味しい食べ物に日々励まされ、助けられつつ、楽しく過ごしています。(田村南海子)